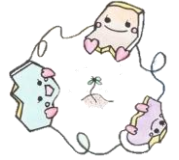


東北復興 PSW にゆうす

このたびの熊本地方を震源とした巨大地震によって被災された方々へ

この度の地震にて被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

その後の度重なる大きな揺れで被害は拡大し、今もなお、不安を抱えながら日々を過ごされている方が大勢いらっしゃる状況ではありますが、皆さまが一日も早く穏やかな日常を迎えることができるよう祈念しております。



今回の震災ではいくつかの精神科病院で機能麻痺のため転院調整が行われ、多くの仲間が奔走しています。病院以外でも震災の影響により多くの困難に直面している仲間がいらっしゃると思います。自らも被災されながら支援を続けておられる姿は東日本大震災が起こった当時と重なる部分もあり、東北の仲間も皆さまのことを強く案じています。

今回は紙面の一部を変更し、今回の地震によって被災された仲間へ、全国から集まったメッセージをお届けします。

東日本大震災の時は大変お世話になりました。時折ある小さな地震とともに三陸海岸で育った私でも、今回の連続の揺れは想像もつきません。お見舞い申し上げます。

被災地には応援のPSWが来てくれます。その方々はベテランですので、お世話をしなくともいいと今になって思います。5年前、寝袋、食べ物があるから何もいらぬよ、と言ってくださるにもかかわらず、簡易ベッドと若干の病院食を用意に奔走。受け入れ慣れしてなく、とても疲れた思いがあります。来てくれるPSWさんは来る覚悟がしっかりできておられるのです。頼りましょう。あてにしましょう。それで応援PSWさんもよいのですから。

また、専門職には怖いという思いなど吐露できる相手がいまいません。吐露する習慣もないかも。私は我慢するほうでした。応援に行かれる方はPSWのケアをお願いします。私は個別に話を聞いてもらい、救われました。何せ近場の同僚たちはみな被災者ですから、言っても仕方ないし、と思いました。まして援助職は、クライアントだけでなく、まさに「職場でも話を聞いてくれる人」であったため、聞く立場になりやすく、ついつい二次トラウマを受けていると思います。私は、帰宅して妻からも今日の自宅の被災の状況を……私は聞きたくなくて断りました。妻には怒られましたが。まともりませんが自分を大切にしてください。(宮城)

熊本・大分大震災にて被災された皆さまへこの度の震災にて被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。度重なる地震による不安と、避難生活による疲労を抱えていらっしゃると思います。毎日報道される被災地の現状に耳を傾け、私も身近な募金からできることを始めました。多くの人々が、できることを始めています。そしてできるだけ早く動き出そうとしています。一日も早く地震が落ち着くことと、体調を崩されないことを祈っています。(岩手)

心細いこと、不安なこと、たくさんあると思います。頑張りすぎないでください。(M. I 岩手)

時間がかかるとは思いますが、あの熊本のキレイな街並みが戻るよう少しずつ前に進んでいきましょう。(静岡)

毎日の余震に恐れ想いをされていることと思います。辛い時は我慢しないでSOSを発信してくださいね。(青森県)

1日も早く安心できる日が来ますように。長くエールを送りつづけます。(YY 東京)

★他にも多数いただきました。次号または本協会WEBサイト等で随時ご紹介いたします★

◆お知らせ◆

※ツアーの様子は次号でも紹介します。

「復興支縁ツアー in ふくしま」が2016年3月12～13日に開催されました。

「復興支縁ツアーin ふくしま」を開催して ふくしま心のケアセンター 松田聡一郎

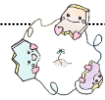
この度はたくさんの皆さまにご参加いただき、ありがとうございました。復興支援委員会の方々を中心に、時間を掛けて丁寧に準備をしていただき、無事にツアーを終えることができましたことをご報告いたします。

初日の3月12日(土)は、相談支援専門職6団体による『多職種共働』の歩み@福島2016』と題した実践報告とパネルディスカッションに参加し、多職種から見た福島の現状と課題について学ばせて頂きました。県外からのツアー参加者からは、「PSW以外の視点からの意見は新鮮だった」、「震災当時の大変さを改めて感じた」等の意見が聞かれました。

翌3月13日(日)は南相馬市に場所を移し、津波被災地の現状視察とスタッフ企画による研修会に参加頂きました。道中の飯舘村では、野積みされた除染廃棄物に見入られていた方も多くいらっしゃったようです。研修会では、なごみの須藤さんから「緊急時における障がい者支援」、松田からは「災害時における精神保健福祉士の役割とは」と題してお話をさせて頂きました。南相馬市の保健師さんからお菓子の差し入れをいただくというサプライズもあり、なごやかな雰囲気での研修を終えることができました。

今後とも皆さまからの温かいご支援をよろしくお願いいたします。

ツアー参加者の感想



マスコットキャラクター「えんが〜る」

○多職種からの視点のお話を一気に伺え非常に勉強になりました。また是非参加したいです。○ストレートな体験談と専門職としての概念化との2部構成が良かった。○最後のグループワークが自身の通常業務をふり返るきっかけになった。○映像等でしか知らなかった被災地を実際に見ることができた。○活動報告とグループワークも非常に有意義かつ貴重なお時間でした。○たくさんの人、他業種の人とも顔なじみになってふだんから助けあえるように関係づくりをしたい。○防災から備災へ。個人としても何も準備出来ていないので、今日から出来ることは何か考えていきたい。○準備、ご配慮ありがとうございました。皆さんの仲の良さに日頃からの共働ぶりが垣間みられました。

★今年の全国大会でも販売ブースを設置します★

昨年に引き続き、今年も第52回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第15回日本精神保健福祉士学会学術集会(山口大会)にて岩手・宮城・福島の事業所製品の販売を行います。震災から5年が経った今の状況をお伝えしながら製品に触れていただく場にできればと準備を進めています。全国大会に参加の折にはぜひお立ち寄りください。

①熊本県熊本地方を震源とする地震被災地緊急応援事業

前述の販売ブースに併設の形で、商品の売り上げを本協会「2016年熊本県熊本地方を震源とする地震被災地支援に係る募金」に充当する企画も行います! 商品として寄付いただける物品を、構成員の皆さまに募集しています。 募集要項は山口大会WEBサイトにて ⇒ <http://www.japsw.or.jp/taikai/2016/>

被災地における障害福祉事業所の販路拡大支援について

復興がまだ道半ばな東北地方に対する支援事業として、物販をしている障害福祉サービス事業所の販路拡大の一助となるべく、本協会WEBサイト上で掲載申出のあった事業所のご紹介リンクをしています。

詳しくは本協会の東日本大震災復興支援情報サイト(下記URL参照)をご覧ください。

★皆さんからのメッセージを募集します★ 本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しています。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本紙へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面や協会WEBサイトにてご紹介させていただきます(原則として投稿者氏名以外の個人情報掲載しません)。メッセージ投稿は東日本大震災復興支援委員会へのFAXもしくはE-mailにてお願いします。

E-mail: office@japsw.or.jp * 題名に「PSWにゆうすについて」とご記入をお願いします。

第22号 2016年5月15日発行

発行:公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

URL:<http://www.japsw.or.jp/> ★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>